

中国朝鮮族の農村における現状と変化

論文要旨

中国朝鮮族は外来民族として19世紀半ば以降、段階的に中国東北地方に移住して成立した民族である。中国朝鮮族は他の民族と同様、長い歴史の中で民族の発展のために大きな貢献をした。本論文は中国朝鮮族を対象とした研究であるが、主に中国朝鮮族の成立経緯と歴史、現在の動態的現状、及び今後の発展変化の展望という一連の時代の流れに沿って研究対象を分析することを試みた。そして最後に、全体の問題点をまとめると同時に、中国朝鮮族の将来の経済社会の進歩に自分なりの提案を述べた。この論文は序言、本論、結論という構成である。

序章では、中国朝鮮族の経済社会を研究する目的と意義を中心に述べ、主に1949年新中国成立後から現在に至るまでの朝鮮族に関する研究動向を統括した。それらの研究動向を整理する過程において、朝鮮族研究においては、歴史などを中心とした研究はこれまで一定の成果が見られるが、農村の変化を動的に捉える研究は比較的少ないことが分かり、本論文の研究意義を見出すことができた。

第一章では、まず朝鮮族の概況についてまとめた。特に朝鮮半島からの移住、開拓そして定住する経緯の詳細を記述し、この移動の経緯から、中国朝鮮族の特徴と言える「移動」というキーワードを見出すことができた。さらに、朝鮮族の生活に関連する文化的特徴の概略についても整理し、朝鮮族の全体的な概況を明らかにした。

第二章では、中国朝鮮族の人口流動とその影響を述べた。まず、今日の農村から都市部への出稼ぎ、中国朝鮮族居住区から韓国など海外に向けての朝鮮族人口流動の現状とその社会背景を述べ、また朝鮮族人口流動の特徴、及び人口流動に至る理由を記述し、最後に朝鮮族の人口流動が朝鮮族にもたらした社会的影響を指摘した。最も指摘したい問題は以下の4つである。1、農村における民族教育の発展が影響をうけている。2、結婚できない婚姻適齢期の男性が増加している。3、農村の基層幹部の人材が不足している。4、外国に行って出稼ぎをし、人の移動とともに民族意識に関しての問題も現れた。最後に、筆者として朝鮮族が現在の経済的優位性を十分に活用し、個人的な発展を遂げたのち、故郷に帰って故郷の発展に貢献できるのではないかという個人の意見を提案した。

第三章では、朝鮮族は教育を重視すること、教育から得た知識と結果によって一般人の文化的素質の質が高まったと記述した。その理由は以下の2点である。1、民間に

において教学を積極的にすすめる基盤が作られている。2、中国各民族の中で率先的に中小学校の教育を普及する政策を施した。

第四章では、朝鮮族の農業の現状と変化を以下5つの視点から分析した。1、農業の経営体制、2、農業の規模の拡大化、3、利潤をもたらすことができる農業システムの構築、4、農民の収入水準の向上、5、農業に対しての意識の変化である。これらの視点による分析は、他の農村においても指摘されることであるが、移動の多い朝鮮族居住区における特徴との関連性に注目しながら、今日の農業の問題に言及したことが本論文の特徴といえるであろう。農村において農業は生活基盤となってきたが、人口流動における過疎化などの問題に直面している農村にとって、農業基盤を維持することは大きな課題となっている。経済発展と民族の発展と生活の安定を求める基盤作りのために農業の間には、発展的相互関係の形成が望まれるが、人的不足の問題などさまざまな問題を抱えている。

本論文の特色は以下の3つの通りである。1、これまでは一時代のみ集中する研究方法が多かったが、中国朝鮮族形成の歴史、現状及び将来の展望について、時代の流れに沿って詳しく記述し、中国朝鮮族の変化過程を動的に捉えようと試みている。2、特に、改革開放以後の朝鮮族経済の発展を分析し、人口流動が社会経済にもたらした重大な影響を分析した。3、主に朝鮮族の社会発展の現状と不足、矛盾を指摘して、それを解決する対策を筆者なりに模索し、新しい提案を提出しようとした。

この論文の主旨は以下の4つである。1、中国朝鮮族は中国東北地方の農業振興や農村建設に進んで参加して大きな貢献をした。2、今日、朝鮮族の人口流動は社会変動する大きな要因であることを提示した。3、改革開放以後の朝鮮族社会は出稼ぎなどの人的流動によって大きな社会変化が見られた。これはこれまで挫折を経験したが、朝鮮族が現代化をすすめるにあたって避けられないことであり、今後この挫折を克服し、如何に社会発展が進められていくのか、あるいはどのような新しい問題に直面するのかという問題は、今後の朝鮮族における社会文化研究において、注目に値することを指摘した。4、中国朝鮮族は他の民族地域に先に立って改革開放を進めた。よって、改革開放政策のなかで経験した朝鮮族社会発展における問題と経験、対策を詳細に調査することは、他の少数民族の今日の状況に関する研究においても、詳細な事例と確実な理論を提供することができるのではないかと提示した。